

イランから初の留学生

テヘラン大学のアーデル・キャリムルーさん 少年時代に出合った「日本」を追いかけて

「日本は子どものころからのあこがれ」。2011年度夏期日本語・日本事情プログラム(6月24日～8月11日)に、初めてイランからの留学生が参加した。アーデル・キャリムルーさん。アーデルさんは、日々日本語学習のほか、日本の文化体験にも積極的だ。

テヘラン出身のアーデルは、25年前の少年時代に「シンドバッドの冒険」を見た時だ。セリフはペルシャ語に吹き替えられていたが、オープニングに流れる日本語のテーマミュージックに心が躍った。



▲ 2度も命中！弓道に挑戦するアーデルさん(右)。左はオレゴン大学のティモシー・アーノルドさん

日本語・日本事情プログラム

仕事に就いたが、2006年、国の経済危機により仕事を辞め、もう一度大学に入学し、あこがれの日本語を勉強しようとした。

イランで最も難易度の高い国立のテヘラン大学をめざし、そのなかでもわずか15人ほどの定員である日本語日本文学学科に二浪して合格。現在2年生だ。

日本企業の奨学金を得られたため、「夏休みを使って日本で勉強したい」と、日本の大学の語学プログラムを探した。比較的長期間の「夏の7週間コース」を設定している専修大学のプログラムをインターネットで見つけ、応募した。

「専修大学の生田キャンパスは、自然豊かで勉強しやすい環境にあります。図書館は広々として



▲ 夏期日本語・日本事情プログラムの参加者

2011に参加。古式豊かな武道・弓道に米オレゴン大生3人とともに挑戦。

「難しかったけど楽しかった。弓道は集中力が大切ということがよくわかりました」

顧問の吉田治弘法曹部教授や部員の指導で2度も的を射た。その時は笑顔がこぼれた。

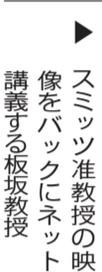
ネット通じ安政の大地震「絵巻」学ぶ

文・日本文学文化学科 1年次生

文学部日本文学文化学科では、ヨーロッパ、アジア、アメリカなどの大規模な災害の歴史を振り返り、学生たちに好評だ。

6月29日の「日本文学講義」(板坂則子教授)では、1年次生を中心に130人が米ペンシルバニア州立大学のグレゴリー・スミッツ准教授の遠隔授業を受けた。

午前11時の生田キャンパスは、自然豊かで勉強しやすい環境にあります。図書館は広々として



スミッツ准教授の映像をバックにしたネット講義の様子

「のぼりとワクワクナイトバザール」 崔君の本場チヂミに行列

地域密着を實踐

都市計画や地域振興を学ぶ経済学部の黒田ゼミは、生田キャンパスの地元、登戸東通り商店街(川崎市多摩区)で6月25日に行われた東日本大震災復興支援「のぼりとワクワクナイトバザール」に参加、チヂミの模擬店が大人気だった。

同商店街はJR登戸駅から徒歩5分の好立地にありながら大型店舗の出店などで利用者が減少している。

このバザールは商店街が「イベントを通していろいろな方々と触れ合い、活気あふれるまち作りを」と2001年に始めたもので、今年10周年。年々盛り上がりを見せている。

当日は、黒田ゼミのほか地元子ども会、市民団体など16団体が参加。家族連れなど地域の住民が多数詰めかけ祭りを楽しんだ。

今回参加の黒田ゼミは、昨年までバザールの駐車場の整理など裏方を担った。



▲ チヂミづくりに励む崔哲洵さん(右端)ら黒田ゼミ生(写真提供=東京新聞)

11年度中期留学プログラム 留学生20人が決まる

2011年度中期留学プログラム(英語・社会知性開発・中国語・コア語)の4コース。いずれも後期の留学生20人が決まった。写真。

留学先と派遣期間、留陽子(文3)

●上海大学(中国、9月12日～2012年1月8日)

●ワイカト大学(ニュージーランド、8月20日～12月12日)

●松竹可歩梨(経済3)

●安西祐哉(経済2)

●成井千紀(文3)

●風間陽子(文3)

●小泉卓也(経済3)

●佐藤江梨子(経済3)

●梶原奈津美(商3)

●片方悠子(商3)

●檀国大学(韓国、8月5日～11月20日)

●内野千春(経済2)

●山口瑠里子(経営2)

●鈴木藍(文2)

●大隈公美子(文2)

●添田理奈(文2)

●松尾瑛里奈(文2)

●小川愛帆(ネット情報4)

「アジア理解プログラム」10月開講

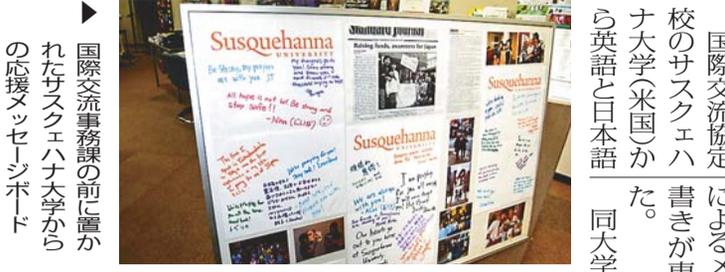
アジア理解プログラム(国際交流センター主催)の中国コースとベトナムコース(いずれも全8回・受講料3000円)が、10月から生田キャンパスで開かれる(国際交流センター主催)。

ネットタイプの留学生を講師に、基本会話を練習し、言葉や会話だけでなくその国の文化にも触れ、国際交流協定校の学生とクリスマスカードの交換をするなど、正規授業では体験できない学習会だ。

また、ドイツ、フランスの学生が母国を紹介する、ヨーロッパ理解プログラム「留学生と触れるヨーロッパの文化と社会」(全3回・無料)も開催される。

問い合わせは国際交流事務課へ。

We are always with you



国際交流協定校 米国サスケハナ大学から応援メッセージ

国際交流協定によるメッセージの寄せられたサスケハナ大学から英語と日本語の両方で、同大学のスタッフで、専修大学の夏期留学プログラム参加者が留学した際にプログラムのコーディネーターやホームステイの受け入れに尽力いただいているミミ・ライスさん、鳥居純子さんらから送られたものだ。在米18年の鳥居さんらは、東日本大震災で被災した専修大生や、被災地区の状況に心を痛め、現在も募金活動を行っている。

「We are always with you」頑張れ専修」などと書かれた書き込みは現在、生田キャンパス9号館の国際交流事務課の前のボードに飾られている。写真。

この温かい善意に心え

昨年、一昨年の夏期・春期両期留学プログラムに参加した学生約50人がお礼のメッセージを書いた。

8月5日から同大学で実施される夏期留学プログラム(参加14人)に持参され、ライスさん、鳥居さんらに渡される。